



園だより

2016年10月

シオン保育園・子育て支援センター・シオン子どもの家

年主題 「キリストはわたしたちの平和であります」

聖書エフェソ2:14

月主題「あなたがたは地の塩である」 聖書マタイ5:13

♡シオン保育園

*1日(土)シオン保育園運動会 場所は西ノ島町体育館 (8:50~11:30)

お手伝い下さる方は8:30までに体育館にお願いいたします。詳しくはおたよりをご覧ください。

*7日(金)荒井真理さん来園 荒井さんはバングラデシュで聴覚障がいの子どもたちのために長年働いてこられました。今回は人権研修の講演のために来られましたが、子どもたちにもバングラデシュのお話しをしていただきます

*13日(木)横棚カネ子様よみきかせ ボランティアの横棚様が絵本や紙芝居の読み聞かせをさせていただきます

*14日(金)遠足…行き先は大山海岸です。おかず入りお弁当・おやつ・水筒・ごみ袋・シート・帽子おしぼりをご用意下さい。後日お便りを配布しますのでご覧ください。

*20日(木)楽天いどうとしゃかん 後日お便りを配布しますのでご覧ください。

*21日(金)(10:30~)誕生会 10月生まれのお子さんの誕生会をいたします。うさぎ組以上の10月生まれのお子さんの保護者様はどうぞご参加ください。参加費は200円です。この費用は「お誕生日ありがとう運動」に全額寄付いたします。誕生日ありがとう運動は、障がいをもつ人たちに対しての啓発活動を行っている団体です。

*24日(月)…木村真紀さんコンサート(10:30~) シンガーソングライターの木村真紀さんがお出でになり子どもたちに向けて楽しいコンサートを行います。どなたでも参加できます。

後日チラシを配布します。場所:保育園ホール

*28日(金)…クレオさん来園 クレオさんと英語で遊びましょう!

♡子育て支援センター 10月の行事

子育て支援センター専用の電話が付きまして、番号は08514(7)8566です!

*子育て支援センターは(月)(水)(金)開いております。今年度の開設時間は9:00~14:00までです。また、昨年度同様に開設日の午前中すべてに行事を入れていきます。行事の時間はいつも10:00~です。基本的には、(月)は手仕事を楽しまます。(水)は、遊びの日で音楽リズムを中心に日によっては外遊びや散歩などもいれていきます。(水)はおやつを用意しています。(金)はかんたんクッキングです。今月の19日(水)は計測の日。お楽しみ昼食会は28日(金)です。28日に参加される方は21日(金)までにご連絡ください。昼食費は300円です。10月1日(土)の保育園の運動会にもどうぞお越しください。小さなおみやげもあります。食事会等の連絡は上記の電話におかけください。

♡子どもの家

10月1日(土)の保育園の運動会は小学生の参加できる種目もあります。どうぞご参加ください。

10月3日(月)、11月4日(金)は学校が振替休業日のため一日のプログラムとなります。利用なさる方はお早めにご連絡下さい。

保育園・問合せ先 隠岐郡西ノ島町別府 149-9 ☎08514-7-8411 FAX08514-7-8540

子育て支援センター連絡問い合わせ ☎08514-7-8566

子どもの家 携帯電話 090-8716-1324

9月の様子から



9月9日(金)に、バースデイプロジェクトという行事がありました。これは県内の助産師さんたちのボランティアグループによって企画されているもので命の大切さと性教育について講演されているものです。

今回は加藤助産師と家中助産師が訪問されて「だれにだってたんじょうび」の楽しい歌を歌ったりみんなの命はどこから来たのか?という内容の紙芝居をみたり、また

子どもたちや妊婦さんの赤ちゃんの心音を聞いたりしました。子育て支援センターのお母さんとお子さんたちも参加して改めて命を授かることへの感謝や命の大切さを感じられたようです。

子どもたちもお話しをととても真剣に聞いていました。実際の赤ちゃんと同じ重さの赤ちゃん人形をおそるおそる抱っこして「うわあ、おもいな」と驚いていました。

これからも自分も周りの人も大切な存在として、それぞれの命を大切にしていきたいですね。



9月26日(月)には、PHDという団体から派遣されたミャンマーからの研修生のマーチョーさんが来園されました。PHDは発展途上にある国々から研修生を受け入れ、福祉・健康・農業などを担う人たちの人材育成を行っている団体です。シオン保育園でも皆様のクリスマス献金で毎年支援をしております。集まりのときに子どもたちはマーチョーさんに食べもののことをはじめいろいろな質問

をしてミャンマーという国のことを知ることができました。日本に来られて半年しか経っていないのにほとんどの言葉を理解されているのに驚きました。一日一緒にすごして遊んで下さいました。

子どもたちにも色々な国があること・いろいろな国の文化や気候や自然を知って、世界を身近に感じていってほしいと思います。

子育て支援センターは毎回10組前後の利用者さんたちでにぎわっています。支援センターは子育て中の保護者のみなさんの交流の場でもあり、また子育てでぶつかる色々な悩みをお互いに話したり、相談できる場所です。最近では赤ちゃんばかりでなく絵本なども楽しめる年代のお子さんが増えてきました。子育て支援センターでは絵本の貸し出しもおこなっておりますのでお気軽にご利用下さい。

どんな絵本がおすすすめ? 小さいお子さんに人気の絵本(0~2歳児まで)は・・・

「だるまさんが」のシリーズ、「ちいさいうさこちゃん」シリーズ、ノantanシリーズ、ももんちゃんシリーズ、ショコラちゃんシリーズ、福音館のどうぶつえほんやこんちゅう、やさしい、くだものの絵本、のりものの絵本など子どもたちに身近なものがある絵本や楽しさや言葉のリズムが感じられる絵本が人気です。

保育室から

調理室から献立を書いたメニューが3・4・5歳児クラスに毎日届きます。

子どもたちはそれを見て「今日のお昼はなにかな?」とか「やった~!

私の好きなメニューだ~」と楽しみにしています。

使われている食材のマグネットもついていて、子どもたちが食べ物や料理について関心を持っています。毎週水曜日には調理スタッフも保育室に行ってお飯を

一緒に食べています。食育など調理室と保育室が連携を深めるとともに、子どもたちの食べる様子が作る人にも伝わっています。

秋になり暑さが去ると子どもたちの食欲も増し、好き嫌いも集団生活の力でなくなっていくことが多いです。お家では食べられない食べものがあったとしても保育園では残さず食べているお子さんもありますよ。

何かがきっかけになって食べられるようになることもあるので「あせらずゆっくりあきらめずに」お子さんと付き合ってくださいね。





子育てメモ だっこひも・スリングは安全に使っていますか？

赤ちゃんのだっこひも・おんぶひもなどは日常の生活だけでなく、とくに火事や地震などの非常時等には必需品ですね。

でも間違った使い方をすると危険なこともあったり、また子どもの成長に妨げになることもあります。

★赤ちゃんには必ず手を添えましょう

抱っこひもはあくまでも補助の道具であることを忘れないでください。つい両手を自由にしてしまいがちになりますが、**お子さんの体幹や背骨の発達のためにも必ず手を添えて**ください。とっさのときに頭を保護することもできます。

★長時間の使用はしない

赤ちゃん自身にかなりの圧迫になりますので長時間の使用は避けましょう。窒息の危険もあります。保護者さんにとっても長時間の使用は体の負担になります。

★首の座らないうちは使用しない

まだ首の座らないうちはご自身の手で抱っこしましょう。

★4ヶ月未満の赤ちゃんにはスリングは避けましょう

アメリカ消費者製品安全委員会では**4ヶ月未満の赤ちゃんについて**スリングの使用に警告を発しています。窒息や股関節脱臼の危険性の可能性があるとのこと。保護者が転んだときに赤ちゃんが転落したり、不適切な姿勢のとき赤ちゃんが窒息するなどの事故があったとのこと。特に虚弱体質の子どもや未熟で生まれたお子さんにはとくに注意が必要です。

★安全マークのついたものを求め、説明書をよく読んで正しく使いましょう！

×間違った使い方・・・これはNGです！

×1. 手を添えずに使う。「両手ぶらぶら～」はNG

×2. 赤ちゃんの顔が覆われてしまっている

×3. 赤ちゃんが丸まってしまう姿勢になってしまっている。スリングなどでは赤ちゃんの位置が下すぎる

×4. 赤ちゃんの顔が装着具にぎゅっと押し付けられている

×5. 長時間の使用

×6. 首の座らないお子さんへの使用

お子さんを抱えた時はヒールの高い靴は避けて転ばないように気をつけて歩いて下さいね。

お子さんの健康は大人が守りましょう。

(参考・国民生活センター／子どもの危険回避研究所資料)

♡実りの秋・・・



お子さんが歩くようになる一歳過ぎからは散歩を楽しみませんか？

秋は実りの多い季節。歩いているといつも見慣れた風景の中にも季節の移り変わりを感じたり、遠くでなくても近いところに新しい発見があったりします。

お子さんと自然の中で一緒に歩いて楽しめることは素敵なことですね。たとえば今の季節、どんぐりが落ちていたり色々な花が咲いていたり、栗が落ちていたり、

きれいな小鳥がいたり、ばったやかまきりなどの虫がいたり・・・そんなささいなことに気づいて子どもと一緒に感動できたら素敵ですね。

あるお医者さんが「人が感動したり笑ったりすることで病気を遠ざけることがある」と雑誌に載せておられましたが、小さなことでいつも感動できる人は幸せですね。子どもにはそんな才能が生まれつき備わっているように思います。「ねえ、見てみて！」「すご～い」と子どもに言われたら一緒に足を止めてみましょう。

「ほんとだね」「よく見つけたね～」と会話が進むでしょう。